

闘争100日突破！京品ホテル闘争勝利！連帯集会 JR東海労からも集会に参加！労働者の連帯で理不尽な世の中を変えよう！

97日間の自主営業へのご支援に感謝し 不当解雇撤回まで闘います

1月25日早朝7時より、裁判所の執行官・警視庁の私服警官と機動隊・高輪署の警察官・警備会社のガードマン合わせて総勢1000名の体制で強制執行が行われました。

私達は、支援に駆けつけてくれた労働組合の仲間やお客さまも含め、300名でスクラムを組み、不当な強制執行に対抗しましたが、残念ながら強制執行を阻止することはできませんでした。

私達が続けてきた自主営業の闘いも97日目で続けることができなくなりました。これまで私達の自主営業の闘いを支援してくださった多くの皆さんに心からお礼を申し上げます。

自主営業という闘いはできなくなってしまいましたが、私達は、今後も不当な解雇と従業員の不当解雇撤回まで闘い抜いていきます。今後とも、より一層のご支援をよろしくお願いします。

不当な仮処分決定と強制執行に負けず 生存権を守るため闘います

1月15日、東京地方裁判所民事19部審判部裁判官より、京品ホテルから東京ユニオンと組合員の立ち退きを命ずる仮処分決定が出され、1月25日に強制執行が行われました。

この決定は「事業主が自由に行い得るものであり、これを従業員において争うことができない」と言い切り、京品ホテルのように社長の放漫経営の結果、リーマンと小林社長により計画された不当なやり取りが原因で、労働者はこれに従え、と言うものです。

さらに「仮に解雇が解雇権を濫用したものとして無効であるとされても、使用者が事業を廃止した場合にこれを再開するよう請求する権限は従業員にはない。」とまで言い切っているのです。私達は、京品ホテル従業員のみならず多くの労働者に悪影響を及ぼす今回の仮処分決定を許すことはできません。

こんなことが許されるのなら、放漫経営のついでを全て従業員に背負わせて、会社の財産を処分し、自分たちの人生を、と考えた小林誠社長のような無責任な経営者が益々増えてしまうことになるでしょう。

東京ユニオンは、不当な仮処分決定に異議申し立てを行っています。

港区の歴史的建造物 京品ホテル取り壊しに反対しよう！

従業員全員を解雇し、ホテル廃業し、土地と建物を引き渡せば小林誠社長は60億円の借金が清算でき、地権者小林一族には5億9千万円が払われる。従業員とその家族を犠牲にして結ばれた「理不尽な売買契約」は、5万人以上の多くの方々の署名の力によって、買主であった会社が売買契約を解除し、ホテルの買収から撤退したことにより、ついに破綻しました。従って、私達を強制執行によりホテルの外に追い出しても、話し合いをしない限り、ホテルの買主は現れません。

京品ホテルがリーマンの手に渡れば港区の歴史的建造物にも指定されているこの建物は、取り壊されてしまいます。私達は、京品ホテルの建物の取り壊しには今後も反対していきます。



自主営業で果敢に闘った仲間たち

1月28日、総評会館において「東京ユニオン」京品ホテル支部の仲間たちは、強制執行に抗議し闘いをさらに継続するために緊急集会を開催しました。

J R 東海労からも、京品ホテルの仲間たちと連帯し共に闘うために、J R 総連の仲間たちと集会に参加しました。集会では、力づくで、労働者を排除する権力に対する怒りと、従業員を全員解雇した経営陣に対する怒りをバネに、今後も解雇撤回に向け闘いを継続していくことが確認されました。

まさに、労働者の連帯した力こそ、理不尽な世の中を変える原動力になることをあらためて実感した集会でした。

強制執行に負けず ピラ配りを再開！



ホテル前で「闘い続ける」とピラ配りを再開した組合員らー港区で

JR総連も闘いに連帯！

連帯の挨拶をする

J R 総連・加藤共闘部長



「強制執行に負けず」
09/1/28 京品ホテル 30人が街宣活動再開
JR品川駅前の老に東京地裁の強制執行
舗、京品ホテル（港）でホテルから退去させ
区）の労使紛争で、廃られて以来、初の街頭
業後も自主営業を続ける
組合員ら約30人は
「ホテルから外に追
出されても歩道で活動
「誰か闘いをしてやめ
よう」とは言い出さな
い。これに先づうもの
は、数日間ホテル前
一般の人たちの支援
の感謝や闘争の継続を
呼び掛けた。二十五日
人にも声を配った。強
アピールする予定。